

ハーモニー

Harmony

第91号 2023年6月30日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

第31回学術集会（新潟）へのお誘い……………1
【会員交流⑤】ハーモニー対談：養成教育についての課題…2
「新・私の実践と研究」⑤
定時制高等学校における生徒への支援……………4
各委員会委員からのメッセージ……………5
①編集委員会委員の声……………5
②総務委員会委員の声……………6

第30回学術集会における投稿奨励研究の選定報告…7
2024年度「研究助成金研究」の募集が始まりました…7
投稿論文の募集……………7
理事会議事（報告）……………8
事務局からのお知らせ……………8
編集後記……………8

第31回学術集会（新潟）へのお誘い

学会長 塚原加寿子（新潟青陵大学）

向夏の候、会員の皆様におかれましては子どもの健康を守り育てる活動に尽力されていることと拝察いたします。新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、マスクをはずした子どもの笑顔が見られるようになってきました。少しずつ次のステップに進んでいる感じがします。

このような状況を踏まえ、第31回学術集会は、2023年12月9日（土）、10日（日）に新潟青陵大学を会場にハイブリット方式で行います。

メインテーマは、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」としました。

現代は、将来の予測が困難な「VUCA」（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性））の時代と言われています。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、私たちの生活は大きく変わりました。学校では、子ども同士の触れ合いを基盤とした集団活動や体験活動が制限され、ICT環境が急速に整備されました。子どもの健康課題も、いっそう多様化・複雑化しました。予測困難な日々の中で、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭は現実的な対応を迫られるとともに、子どもの健康と成長のために、多様な養護実践を積み重ねてきました。「子どもの健康と育ちを支える。」それは、どのような時代になっても変わ

らないのかもしれませんが。

一方で、Society 5.0時代として社会の在り方そのものが大きく変化し、新しい時代になろうとしています。新しい時代に生きる子どもたちに、養護教諭はどう支援していけばよいのでしょうか？今回は、子どもの可能性を広げるという視点で考えたいと思います。国籍、人種・民族、宗教、信条、年齢、性別、性的指向、社会的問題、経済的状态、ライフスタイル、健康問題の差異にかかわらず、すべての子どもが、自分の可能性を広げていけるように支援するために、養護教諭はどのような力が必要なのかを、皆様と一緒に考える機会にしたいと思っています。

特別講演は、「体験談から考える子どものきもち」というテーマでNPO法人ぶるすあるはの細尾ちあき氏よりご講演いただきます。

シンポジウムは、本学術集会のテーマに掲げた、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」について3名のシンポジストにご提言いただき、フロアの方々を交えて議論していきます。ワークショップは3題を予定しております。また、今年は5年ぶりのプレコンGRESS、6年ぶりの情報交換会も予定しています。

多数のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先 第31回学術集会事務局

jayte31th@gmail.com

学術集会HP

お申し込みなど、詳細はこちら→



第31回学術集会について

1. 期 日 2023年12月9日(土)、10日(日)
2. 学会長 塚原加寿子(新潟青陵大学)
3. 会 場 新潟青陵大学
新潟市中央区水道町1-5939
4. メインテーマ



「新しい時代に生きる子どもたちの
可能性を広げる養護教諭の力」

5. 内 容

【12月9日】

プレコンGRES(予定)

学会長講演 塚原加寿子

特別講演 「体験談から考える子どものきもち」

NPO法人ぶるすあるは 細尾ちあき氏

<https://pulusualuha.or.jp/>

シンポジウム

「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる
養護教諭の力」

情報交換会

【12月10日】

一般発表(口演発表・ポスター発表)

研究助成金研究発表

ランチョンセミナー

ワークショップ

6. 参加費等

Webによるオンラインでもご参加いただけます。

会員 4,500円 会員外 5,000円

学生 2,000円 抄録集のみ(送料込) 2,500円

*情報交換会 7,000円

*一日目の昼食(新潟のおにぎり) 500円

事前に抄録集を入手されたい方は、11月7日(火)までに第31回学術集会ホームページからお申し込みください。合わせて、郵便局にて参加費等をお振込みください。会場で当日支払い、参加受付もできます。



7. 一般演題の募集

一般演題を募集しています。募集要項をご確認いただき、一般演題申込用紙にご記入の上、E-mailで jayte31th@gmail.com までお送りください。



申込み締切は令和5年7月31日(月)までです。
多くの皆様のご応募をお待ちしています。



◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 【会員交流⑤】 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ハーモニー対談：養成教育についての課題 養護教諭養成の課題(日々感じる思い等)

井澤昌子(名古屋学芸大学)

養護教諭養成には2000年から携わらせていただいておりますが、自分の学生時代に比べ、熱心に勉学に勤しむ学生たちから、毎日刺激を受けています。養護教諭の採用状況が厳しい中、子どもを支える存在になりたいと互いに切磋琢磨しながら、課題に取り組む姿には日々感心させられています。私は、2013年からの7年間は専任教員を離職し、育児・療養等をしながら、小学校・大学の非常勤職・大学院生を兼務した後、2020年に現職に戻りました。復帰直後はコロナ禍だったこともあり、7年間の空白を切々と感じ、浦島太郎気分を味わいましたが、いったん職を離れ様々な経験をしたことで、連続の日々の中では見えなかった気づきも多くありました。

私が養成の道に進んだのは、在学中に愛知教育大学の大学院に養護教育専攻が開設され、声をかけていただいたことがきっかけでした。偶然、本学会の創設時に堀内久美子先生の研究室に所属しており、学会設立の意義や役割を教えていただいたことをよく覚えています。当時は会員管理やハーモニー発送を所属学生が手伝っておりましたので、賑やかに作業していた記憶がよみがえります。大学院では、先生方が取り組んでいた養護教諭の複数配置に関する研究プロジェクトに関わらせていただき、天野敦子先生をはじめとする諸先生方から幾度となく指導を受け、温かく見守り続けていただきました。その後、関西女子短期大学に助手として赴任しましたが、養成のノウハウを丁寧に教えていただき、地域の先生方にも大変お世話になりました。愛知に戻ってからも、本学会理事長の後藤ひとみ先生をはじめ、東海地区の先生方に多くのことを教えていただいたことが、現在の私に繋がっており、感謝の念に堪えません。

今、養護教諭養成については、二つの課題を感じています。一つ目は、時代の変化に合わせた教員養成についてです。近年は、保護者の立場からも教育現場の移り変わりを強く感じています。デジタル化・情報化が進み、倍速で時が流れる中、人々の価値観や生き方の多様化が進んでいます。情報があふれ、多様性が認められるからこそ選択肢が増え、その事が却って子どもたちの生きにくさに繋がっているのではないかと感じる時があります。正解のない時代に適応するために、選択する力を付けることも必要とされています。私事で恐縮ですが、昨年、小学校に通う我が子が通学困難に陥った際に、学校からオンライン配信やコミュニケーションツール等の支援を受け、大変ありがたく感じました。本学では、2022年度から教諭免許取得に必修化されたICT活用に関する科目を養護教諭免許にも必修としました。保健科教育法の授業等と合わせて、教室で授業を受けることが困難な子どもや一人ひとりの特性に合わ

せた支援ができるよう ICT を活用した授業づくりに挑戦しています。情報化社会を生きる子どもたちに適した教育方法の開発をめざし、創造力豊かな学生たちに助けられ、試行錯誤を繰り返しています。今後も、同じ分野で研究をされている先生方のご助言をいただきながら、時代の変化に合わせた教育の在り方について、模索を続けていきたいと考えています。

課題を感じる二つ目は、養護教育に関する研究活動についてです。若い頃、休日や夜間に、時には研究室に泊まり込み、ご指導を仰ぐことがありました。先生方に感謝の気持ちを伝える度に「いつか若い方に返してくれればいいのよ…」と声を掛けていただきましたが、未だ返すことができず、力不足を痛感しています。養成の道に進んだ頃、養護学確立をめざし、研究活動を続けることの大切さを、多くの先生方から教えていただきました。教育現場が多様化する中、教員養成においても、多様な教員が養成に携わることが求められています。養成教育に携わらせていただく中で、現職経験が豊富な先生方から実践知・経験知を教授していただくことの重要性を強く感じる一方で、基礎的な研究を継続する必要性を日々感じています。本学会設立 30 周年記念行事では、若い頃に背中を見続けていた養護教育の基礎を築き上げた先生方の貴重な軌跡を拝見させていただきました。今回、ハーモニー対談という貴重な機会をいただきましたので、これを機に原点に立ち戻り、これまでの自分自身の研究活動を振り返り、次世代へ繋ぐために何ができるのか、再考していきたいと感じております。

末筆になりますが、会員の先生方のご健康と本学会の益々のご発展を心より祈念いたします。

井澤先生の寄稿を読んで

山本訓子（関西福祉科学大学）

井澤先生はじめまして。この度、会員交流ハーモニー対談をさせていただきます山本です。私は幼稚園、小学校、高等学校の養護教諭を経て、養護教諭養成には 2020 年から携わらせていただいております。2020 年は、井澤先生の現職復帰と同じタイミングですね。私もこの年は、養護教諭から大学教員への転職でしたので、転職って本当に大変なことなのだなと思ひ必死でした。

井澤先生は学部から養護教育専攻に入られており、養護教諭養成の先生方から直接学ばれていて、うらやましいなと思いました。学会設立時からの長い歴史とともに歩まれていらっしゃるのですね。私は、宮城学院女子大学の管理栄養士専攻で養護教諭の免許を取得し、兵庫教育大学大学院では発達心理を専攻したので、養護教諭養成を専門としている先生方から直接学ぶ機会もなく、現在に至ってしまいました。このような経歴ですが、私もこの学会に入ったことで、ようやく養護教諭養成の先生方と繋がりができたように思えます。この学会の先生方ともしっかり

強したいという気持ちでいっぱいです。

井澤先生の日頃思っているような養護教諭養成の課題の一つ目は、時代の変化に合わせた教員養成ですね。私の昨年度の授業でも、学生が模擬授業を行う場面で、ICT 活用を指導しておりました。恥ずかしながら、どのようなことをしていたか記しますと、現在求められている ICT 活用が少しできているのかなと思ったものは、デジタル教科書を使用して授業を進める。Microsoft Forms の機能を活用し、事前アンケートを収集する。大型モニターや ICT 端末にグラフ化した受講者のアンケート結果を示して全体で共有し、話し合い活動を行う。ICT 端末で保健の教科書にある手本動画を全体に共有し、リラクゼーション、体ほぐしの運動を実践するなどをやっておりました。

学生には模擬授業のグループでそれぞれ工夫して ICT を取り入れた様子が見られ、学生自身も「この授業で ICT 活用できるようになった！」と肯定的な自己評価をしていましたが、果たしてこれで ICT 活用をしたと言ってよいのかという疑問が残りました。また、グループの中で ICT が得意な学生のみが制作や操作に関わっており、苦手意識のある学生はできていないのではないかと指導の限界も感じました。さらに、私の授業では一斉指導に焦点をあてており、井澤先生の考えている教室で授業を受けることが困難な子どもや一人ひとりの特性に合わせた支援ができるよう ICT を活用した授業づくりという視点がなかったことに気が付きました。やはり ICT の活用の可能性は広いですね。今後は、子どもたちが楽しく、夢中になって授業に参加するために、ICT を活用した工夫にあふれた授業を作ることができるとよいと思っております。

課題の二つ目は、養護教育に関する研究活動ですね。こちらは私も同じで日々悩んでいます。私の指導教授も大学の同僚の先生方も、真の研究者で常に研究活動、論文執筆されているように見えて、引け目を負って、もがいています。私は井澤先生よりもっとレベルが低くて、何がしたいのだろうか、何に興味があって、何を明らかにしたいのだろうか。今までやってきたことを基に養護教育につなげられることがあるのだろうか。新たなこともやりたいけれど…その辺りを右往左往しており、ただ日々の授業準備に時間を費やし、月日が過ぎていく状況に陥っています。

「一生をかけて情熱を注げるようなテーマはこれだ！」と自分の興味を見付けるために、コロナ禍からようやく社会制限が外れた今、小さな研究室から飛び出し、羽を広げて情報交換、仲間づくりを活発にしていきたいと思っています。井澤先生とも学会を通じてお会いできるかな、ハーモニー対談をきっかけにご挨拶して、近い将来はおいしい食事でもしながら、研究についてお話を聞く機会があればいいなと夢見ています。井澤先生、会員の先生方、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

「新・私の実践と研究」⑤ 定時制高等学校における生徒への支援

田村 恭子（新潟県立西新発田高等学校）

私の勤務する新潟県立西新発田高等学校は、単位制による定時制課程普通科午前部の学校です。明治35(1902)年に新潟県北蒲原郡立新発田高等女学校として創立され、全日制の高等学校として続いていましたが、平成30(2018)年度入学生より単位制による定時制課程に改組されました。単位制の学校の特徴として、学年の枠がなく、定められた単位を取得すれば卒業でき、幅広い講座から一人一人の個性や生き方、生活スタイル、進路希望に合った学習プログラムで学ぶことができます。そのため、本校では学び直しを希望して入学をする不登校経験者も少なくありません。そんな生徒たちが、入学後に仲の良い友人をつくれたり、学習面においても充実感を覚えたり、今まで経験できなかったことに挑戦したりするなど、大きく成長を遂げる姿を見ることが少なからずあります。個に応じて指導するためには、多様な生徒のレジリエンスを複数の職員で支えていくことが肝要であると感じています。

鶴澤¹⁾は、高等学校全体の生徒数が減少する中で、定時制高校の生徒数はなお増加傾向にあり、定時制高等学校は困難を抱える生徒の自立支援等の面でも大きく期待されているとしています。現在、いくつもの定時制高校において、生徒の抱える様々な健康課題に対し、教育相談体制の充実、学び直しのための少人数指導や特別な支援を要する生徒のための通級指導など、その生徒に応じた教育ができるよう様々な取り組みが展開されています。

本校における生徒の健康課題としては、過去の不登校の時期から継続している生活リズムの乱れや長時間にわたるゲームの習慣化が改善されていない等が挙げられます。また、中学時代に学力を十分身に付けることができなかったため、高等学校での学習内容に不安を持ったり、対人関係のスキルが低く他の生徒とどう接していいかわからなかったりするなどの悩みを抱えている生徒もいます。このような状況下では一人一人への丁寧な対応が望まれますが、個々の生徒が持つ背景は多様で複雑であるが故に、養護教諭など職員が一人に対応するには限界があり、職員間のみならず、外部機関と連携したサポート体制の構築が大切です。本校では職員同士で協力体制を作り、チームで対応することで、被支援者への大きなサポートにつなげたいと考えています。

沖津²⁾は、職員の同僚性において、「個人の経験や能力を考慮した組織作りがなされ、対等な雰囲気で見意見を交換しやすい雰囲気」「それぞれの立場を尊重し、お互いに声を掛け合うことができる」ことが、養護教諭の「ケアリング」の機能を支えるとしています（ここでのケアリングの定義は「ケアの存在する養護教諭と子供の関係性やかかわりあい」としています）。養護教諭として職員同士の協

力体制を作るためには、保健室での生徒の様子について、折に触れ自ら進んで職員と情報共有・意見交換するなど、職員同士の対話を大切にしたいと思っています。一人職である養護教諭同士では、学校を超えて養護教諭の仲間同士で思いを共有することで、エンパワメントでき、互いに支えとなるのではないのでしょうか。

新潟県の養護教諭の研究団体「新潟県養護教員研究協議会」は、県内すべての学校の養護教諭の参加が可能となっており、全県研究として調査研究や各研修等を実施しています。ここ数年のコロナ禍においては、養護教諭同士の参集もままならず活動が困難でしたが、歩みを止めず活動を続けてきました。令和3(2021)年度から、「現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割」を研究主題とし、全県研究において養護教諭の相談活動における記録シートの開発を行っております。校内外の関係者と連携する上でも、本シートを活用する意味はあると思います。今後さらに検証を重ね、本シートの改善を図ることで、効果的に活用できるようになればと思います。

ここ数年来の新型コロナウイルス感染症による社会環境への影響、とりわけ、人と人とのつながりに対する影響は大きなものがあるでしょう。もしかしたら、つながりが薄まってしまったかもしれません。しかし、人とつながりたいという欲求と必要性は以前にもまして高まっているように感じます。なぜなら、教育という営みは、本来人と人とのつながりの中で為されるものであり、それこそ人をケアすることにつながるのだと思うからです。定時制高等学校に勤務して、どのような状況にあっても、一人一人の生徒の個性を大切に、その人らしく進んでいけるよう養護教諭として支援していきたい、そのためには多くの多様な人とつながることが大切だと感じています。同僚をはじめとした様々な方々とつながることによって、生徒の健やかな成長という目標を共有しともに歩みつつ、自らの個性をも大切にできる養護教諭でありたいと考えています。

【参考文献】

- 1) 鶴澤京子：定時制高校の養護教諭が行う健康相談活動から見た社会的養護の現状、日本健康相談活動学会誌、17(1)、11-14、2022
- 2) 沖津奈緒：養護教諭の担うケアリングの情緒的機能を活性化させる要因、日本健康相談活動学会誌、17(2)、32-35、2022



各委員会委員からのメッセージ

本年3月に「学会設立30周年記念誌」を発行しました。その巻頭で理事長が現在の事業体制に委員会の存在が欠かせないという趣旨のことを述べています。そこで、本号と次号で4つの委員会の委員から学会運営にかかわる思いを寄せていただくことにしました。

① 編集委員会委員の声

編集委員としての姿勢

委員長（編集担当常任理事） 山崎隆恵

今回、ご自分の仕事に加え、日夜編集に携わっていただいている編集委員の声を皆様にお伝えしたくこの項を作りました。今期の編集委員は、新人もいますがベテランが多く、学会誌・機関紙についてさまざまに議論しています。ほとんどが遠隔会議のため、会議資料の配付や重要情報の保全などが容易で、旅費等の大幅削減ができています。一方、画面ごしの議論では表情や態度から雰囲気や意図を読み取ることは難しい等がありますが、遠隔会議やメール会議を重ねる度に、委員会の範囲を超えた交流が広がり深まっている実感があります。委員の論文の査読や内容に対する責任感の基礎となる姿勢を述べてもらいました。

編集委員での学び

編集担当理事・ハーモニー担当
西岡かおり（四国大学）

学会誌やハーモニーが届くとパラパラと中をみて、興味のある内容を読む…のがこれまでの私の姿勢でした。しかし、この度編集委員として作る側に携わり、委員や理事の熱い思いに触れ、編集委員としての一つ一つの仕事の重さを感じています。同時に、自分の視点や考え方だけではなく物事を俯瞰する力を培っていきたいと思います。また、機関紙ハーモニーの担当をさせていただく中で、沢山の人の手で作り上げられていることを実感しています。これからも、タイムリーな情報発信と会員の皆様の思いをのせていきたいと思っています。会員の皆様のお声もぜひお聞かせください。

編集委員になって

第1号発行担当小委員長
青柳千春（東京家政大学）

初めて筆頭著者として作成した論文が2013年に本学会誌第16巻第2号に掲載されました。養護教諭の児童虐待対応の内容と成果を整理し、多くの方に伝えたいと作成した論文でした。しかし、「伝わる」ようにするのは容易ではなく、査読の先生のご助言を受けながら修正を重ね、ようやく掲載にこぎつけた時は「読むに値する内容だ」と、認めていた

だけたようで、とても嬉しかったことを覚えています。編集委員になり5年。養護教諭教育の発展を願い、執筆者の主張を一人でも多くの読者に理解してもらえよう編集作業をすすめています。ぜひ、皆様も臆することなく投稿してください。

投稿論文の掲載を叶える

編集委員会事務局長
第2号発行担当小委員長
留目宏美（上越教育大学）

編集委員会事務局の主な役割は公平で円滑な査読運営です。近年、本学会誌の投稿論文掲載率は6割程度です。いずれの投稿論文も貴重なデータを扱っておられますが、掲載の可否が分かります。両者の違いは整合性ある論を組み立てられているか否か、いわゆる論理的一貫性の有無です。特に初投稿を検討中の皆様におかれましては、ご自身の原稿を入念に読み解いていただきたいと思います。掲載の鍵は投稿前の精読にあると思います。矛盾なく過不足もなく説明できているか、過大・飛躍的な解釈になっていないか等、ご確認をお願いします。

学会誌発刊までの道のり

特集担当 今富久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校）

友人に誘われて本学会に入会し、学会誌が自宅に届くと興味のあるテーマのものはすぐに読み、少々難しい内容のものはちょっと後にしました。ここに投稿する人は私とは別次元の、論文を書くことが好きだったり得意だったりする人と思っていました。しかし、編集委員の一員として学会誌発刊までの道のりを体験し、実は執筆者も、学会誌として形にする委員の方々も、多くの私的な時間とエネルギーを使うことは同じと知りました。想像すらできなかったことを経験させていただいています。

特集の企画について

特集担当 高田恵美子（畿央大学）

今期より編集委員として、特集の企画を担当しています。適時の話題を取り上げ、情報提供と議論のきっかけとなる企画を目指していますが、正直、テーマ設定が難しいと感じています。

養護教諭教育や養護教諭の実践や実践研究を社会の動向や子どもたちの健康問題、教育行政の在り方といった切り口で企画するため、「今の時代」の何に焦点を当て、何を明確化するのかというコンセプトを、編集委員会で検討しています。また、短期間での特集原稿の執筆をご依頼する場合がありますが、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

編集委員になり

特集担当 中川優子(藤沢市立鶴沼中学校)

日本養護教諭教育学会の前身の全国養護教諭教育研究会の世話人としてお手伝いをしてきた縁で、編集委員として学会誌に関わらせていただくことになりました。現在は印刷所との校正のやりとりはメールで短時間で行えますが、以前は校正紙を郵送していました。そのため3月末・9月末の発刊前には、編集委員長とともに横須賀市にある印刷所内のスペースで念校を行ったことが何度もありました。1冊の学会誌ができるまでに多くの人が関わっていることを知り、学会誌の重みを感じています。

ハーモニーを担当して

ハーモニー担当 山本訓子(関西福祉科学大学)

ハーモニー第87号から担当し、約1年が経ちました。年3回機関誌を発行するため、頻繁にオンラインで西岡かおり先生と打ち合わせをしています。とても大変なのですが、唯一無二の楽しみの時間でもあるかなと思ってきました。8ページもの紙面を完成させるには、たくさんの方の力が必要で、快く原稿を引き受けてくださる先生方に感謝しかありません。今後も読みやすく、心待ちにもらえるような紙面をめざしていきます。

② 総務委員会委員の声

総務委員の紹介

委員長(総務担当常任理事)

大川尚子(京都女子大学)

総務委員会は、本学会が法人化された2021年度に発足しました。事務局は国際文献社に委託していますので、主な仕事は庶務と会計です。庶務の仕事は、諸規程の整備や理事会・代議員総会の開催・運営であり、議事録・総会記録を作成して学会誌やハーモニー等に掲載しています。会計の仕事は、学会会計全体の一部となりますが、加藤委員に事務局長をお願いして、収支管理の確認や予算案の作成等を行っています。また、今期の総務委員が30周年記念事業実行委員となり記念式典を執り行いました。

委員に「総務委員としてどんな心構えで仕事をされているのか、会員にどんなことを期待するか」について聞いてみました。

温かいつながりを

総務担当理事・事務局長

加藤晃子(滝学園滝中学校滝高等学校)

事務局が外部に委託された現在でも、会員の皆様と温かな繋がりを持ち、皆様のニーズを反映した事務局運営を心掛けています。また、皆様からお振込みいただく年会費が学会の活動の資金源です。会員の皆様に納得していただ

けるよう明瞭な会計処理の確認を心掛けます。

現職養護教諭の私がこの立場を担っていることで、本学会が身近な存在だと感じていただき、率直なご意見を寄せていただけると有難く思います。どうぞよろしく願いいたします。

思いを引き継ぐ

総務担当理事 浅田知恵(愛知教育大学)

総務委員の役割をいただき、本学会設立30周年の重みを感じるとともに、恩師の天野敦子先生が養護教諭をしていた私に、「実践を発表してまとめるといいわよ。見てあげるから」と声を掛けてくださったことを思い出します。養護教諭の養成から現職者の資質向上までを見通した養護教諭教育を担う場として、この学会の存在意義を感じます。

養護教諭の多くは各校に一人の配置ですが、本学会が相互に課題を共有する場として発展していくことを期待します。そして恩師を見習い、声を掛け、発信する役割を果たしてまいりたいと思います。

学会運営にかかわる思い

委員 岩崎和子(北海道教育大学)

総務委員としての主な仕事は、30周年記念式典の企画と記念誌発行でした。記念誌の校正においては学会の歴史や思いを肌で触れることができ身の引き締まる思いです。

また、北海道教育大学赴任の利点を活かし、大学理事として後藤理事長来学時には、記念クリアファイルや学会誌PDF箇所の確認作業等を行いました。

今後は、総務委員として定款第3条に定める事業に関わりながら、「養護教諭」という冠がついている学会であることから「養護教諭の学問構築」にも貢献できたらと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

会員の思いに触れる

委員 上原美子(埼玉県立大学)

一会員として、毎回、わくわくしながら学術集会に参加してまいりました。今期初めて総務委員を拝命いたしました。どうぞよろしく願いいたします。

総務委員として30周年記念事業実行委員を仰せつかり、記念すべき節目に、会員の皆様の思いにふれ、胸が熱くなる経験をいたしました。会員の皆様の思いやご意見を大切に、微力ながら諸事業に努めてまいります。

養護教諭及び養護教諭養成の未来にむけて、これからも会員の皆様方と手を携えてまいりたいと存じます。



第30回学術集会における 投稿奨励研究の選定報告

学術担当常任理事 鈴木裕子

本会では、学術集会で発表された一般演題の中から、座長および理事の推薦により、優れた研究を「投稿奨励研究」として選定し、学会誌への投稿を奨励しています。台風やコロナの影響により3年ほど選定ができませんでしたが、一昨年度から復活しています。

第30回学術集会（札幌）で発表された演題からは、次の2件が選定されました。

*杉浦なお実会員他

「自分なりのウェルビーイングを実現できる生徒の育成—養護教諭による健康力を高めるための実践を通して—」

*辻 京子会員他

「インタビュー調査からみえた小学校養護教諭のヤングケアラーへの対応の課題」

投稿奨励研究に選定されると、特典として論文投稿の際に査読費用8,000円が免除され、学会誌掲載時には「投稿奨励研究」であることが明示されます。

次回第31回学術集会でも、投稿奨励研究の選定を行う予定です。特に現職養護教諭による研究を応援しています。

養護教諭教育の発展につながるような研究成果をぜひご発表ください！

お問い合わせ等は下記担当まで。

国士舘大学文学部 鈴木裕子

メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

2024年度「研究助成金研究」の 募集が始まりました

学術担当常任理事 鈴木裕子

本会は、養護教諭教育に関する特色ある研究に対して一件10万円を助成する研究助成金制度を設けています。この助成金を受けた研究が、これまで学会誌に論文として多数掲載されてきました。直近では、学会誌第26巻第1号に、2020年度助成金研究「高等学校における複数配置の養護教諭間に生じる課題の解決にむけた工夫—「情報の共有」と「判断の一致」について—」（研究代表者 神奈川県立横浜緑園高等学校 丸山範子会員）が掲載されています。

このたび2024年度助成の申請受付を開始しました。研究助成を希望する会員は、学会ホームページから申請書をダウンロードして研究計画等を記入し、下記の学術担当常任理事までメールに添付して送信してください。申請期限は2023年9月10日（日）です。申請後、理事会で助成対象を選定し、代議員総会にて報告します。

〈2024年度助成金研究の概要〉

- ・研究期間：2024年4月～2025年3月までの1年間
- ・研究成果の報告：2025年11月又は12月に開催する学術集会にて口頭発表していただきます。
- ・学会誌への投稿：研究期間終了後1年以内（2026年春）をめどに学会誌への投稿をお願いします。

・申請先・問い合わせ：

国士舘大学文学部 鈴木裕子

メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

※学会誌 第25巻第2号115ページにも内規が記載されていますので、ご参照ください。養護教諭教育の発展につながるユニークな研究の積極的なご応募を期待しております。

投稿論文の募集

編集委員会事務局長 留目宏美

皆様の実践記録やお手元に眠っている各種データを整理し、本学会誌に論文投稿してみませんか？

本学会誌は、養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与することを目的に、1年間に2回（9月末及び3月末）発行しています。

現在、第27巻第2号（2024年3月末発行）の投稿論文を募集しています。およそ12月末に査読を終えていれば、当号に論文掲載できます。原稿は随時受付中です。ご準備が整い次第、いつでもご投稿ください。

ご投稿の際は、学会誌や学会HPの「投稿規程」及び「投稿原稿執筆要領」を十分にご確認願います。「投稿原稿執筆要領」に沿っていない論文は、査読前に修正をお願いせざるを得ず、査読の開始が遅れます。その点、ご注意ください。

論文の種別は、「総説」「原著」「研究報告」「実践報告」「調査報告」「研究ノート」「資料」「その他」の8種です。投稿段階でご希望が多いのは「実践報告」（＝有用性の高い養護教諭の実践や養成教育の実践について、論理的にまとめた論文）です。会員の皆様が日々注力し、取り組んでいらっしゃる実践を論文にまとめ、ご投稿いただけることは大変有難く、嬉しく思っております。

学会誌が手元に届くと真っ先に目次を開き、投稿論文タイトルを確認される方が多いのではないのでしょうか。投稿論文は学会誌の華であり、要です。誌面の充実を図る上で、会員の皆様からの論文投稿が欠かせません。奮ってのご投稿をお待ちしております。

理事会議事（報告）

総務担当常任理事 大川尚子

< 2022 年度第 1 回理事会 >

1. 日 時：2023 年 2 月 19 日（日）13：00 ～ 15：40
2. 場 所：Web 会議システムにて開催
3. 出席者：後藤ひとみ（理事長）、大川尚子・鈴木裕子・塚原加寿子（常任理事）、浅田知恵・加藤晃子・鎌田尚子・工藤宣子・小林央美・竹鼻ゆかり・徳山美智子・外山恵子・西岡かおり・松田芳子・宮本香代子（理事）、河田史宝・古賀由紀子（監事）、他の出席：古屋淳子（第 30 回学術集会事務局長）・留目宏美（編集委員会事務局長）
4. 欠席者：山崎隆恵（常任理事）、植田誠治（理事）

【審議事項】

- (1) 第 2 回（2022 年度）定時総会（代議員総会）の議事録（案）について
- (2) 第 30 回学術集会の総括について
- (3) 第 30 回学術集会および定時総会の総括による「申し送り事項」の加筆修正について
- (4) 第 30 回学術集会における投稿奨励研究の選定について
- (5) シンポジウムテーマ「養護教諭の実践の可視化」に関するアンケート結果の扱いについて
- (6) 学会誌の HP 掲載および検索サイト掲載について
- (7) 学会誌における定款・諸規程の掲載および QR コード提示について
- (8) 他学会等の後援に関する規程および書籍案内や催し案内等への対応について
- (9) 2022 年度事業としての計画について

【報告事項】

- (1) 学会設立 30 周年記念事業について
- (2) 学会設立 30 周年に関する「健康教室」への記事掲載について
- (3) 学術集会事務局からの次年度への申し送り事項について
- (4) 「研究助成金研究」に採択された研究の論文投稿状況について
- (5) 「生徒指導提要」に関する WG（仮称）がまとめた資料の公表について
- (6) 第 31 回学術集会について
- (7) 各委員会の取り組みについて

事務局からのお知らせ

広報担当常任理事 塚原加寿子

総務担当理事・事務局長 加藤晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

- 「学会設立 30 周年記念事業」は予定どおりに完了しました。2023 年 3 月の記念誌発行とクリアファイルの配付を

もって完了しましたことをご報告いたします。

- 2022 年度年会費の納入はお済みでしょうか。

2022 年度の事業期間は 2023 年 9 月末ですので、未納の方は納入をお願いいたします。

納入状況は「マイページ」でご確認いただけますが、ご登録がお済みでない方は、右の QR コードまたは学会 HP から設定手続きを行ってください。その際、「会員番号」と「登録しているメールアドレス」が必要となります。会員番号は、封筒の宛名シール左下の数字です。



- 定款及び諸規程は学会誌ではなく学会 HP に掲載することになりました。

学会誌第 26 巻第 2 号（2023 年 3 月発行）より、「投稿規程」「投稿原稿執筆要領」「論文投稿のしかた」以外の定款・諸規程は HP に掲載しています。右の QR コードからも閲覧できます。



- メール登録はお済みでしょうか。

オンライン研修会等の開催連絡をはじめ、タイムリーな情報提供のためにメールアドレスのご登録をお願いしています。登録は、右の QR コードまたは学会 HP をご利用ください。



- 『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集 < 第三版 >』の購入申込みフォームを作成しました。

右の QR コードまたは学会 HP のフォームをご利用ください。なお、先着順にて、学会設立 30 周年記念クリアファイルをサービスさせていただきます。



- 既刊学会誌の学会 HP での全文掲載を進めています。

大変貴重な創刊号からの掲載を準備していますので、今しばらくお待ちください。進捗状況は、ご登録いただいているメールまたは学会 HP にてお知らせいたします。

編集後記

今回の新・私の実践と研究では、定時制高校の養護教諭の先生から一人一人の生徒の個性を大切にするための取り組みをご報告いただきました。私も定時制高校に勤めていた経験があるので、当時を思い出しながら読ませていただきました。新潟県養護教員研究協議会で開発しておられる相談活動における記録シートもぜひ見せていただきたいと思います。また、会員交流のハーモニー対談、各委員会の声は初企画でしたが、いかがでしたでしょうか。次号は広報委員会、学術委員会の声を掲載する予定です。ご期待ください。

（山本訓子）